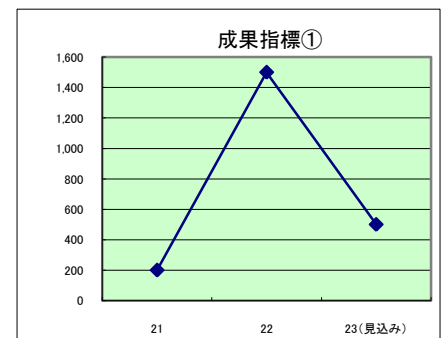
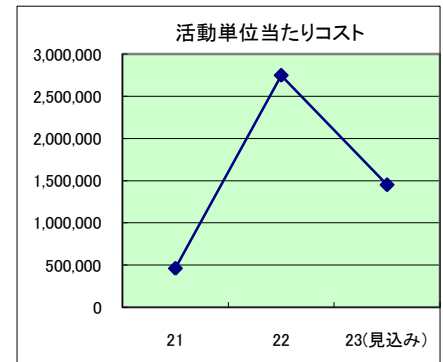


事務事業名	平和推進事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち	款	2	総務費
	施策(節)	1	平和意識・人権尊重	項	1	総務管理費
	施策の方向	(1)	平和意識の高揚	目	16	市民協働費
				事業	4	平和推進
関連する計画等			作成部署	市民人権部人権推進課		
事業の目的	対象(誰を・何を)		連絡先	072-958-1111 内線 1054		
事業の内容	市民					
	意図(どういう状態にしたいのか)					
	多くの市民に平和の尊さ、戦争の悲惨さを訴え伝えていくことにより、平和への願いの高揚を図る。					
	・毎年5月5日に行われる「はびきの市民フェスティバル」の会場内において『羽曳野市平和展&人権展』を開催している。平成22年度は、終戦65周年記念事業として、8月7日・8日の2日間、LICはびきのにおいて『特別平和展』を開催した。 ・羽曳野市ゲートボール協会と連携し『平和ゲートボール大会』を実施している。 ・外国や地域が核実験を行ったときには、その抗議文を送付している。					
根拠法令等	日本国憲法・羽曳野市非核平和都市宣言					
事業開始時期	☒ 昭和 59 年開始 ☐ 平成	☐ 明確にはわからない ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている	終了年度	平成	年度	
事業開始時からの状況変化						
市民や議会の要望						
実施手法	☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先	☐ 市外郭団体委託 名称()		委託内容			
	☐ 民間委託 ☐ その他					

区 分		21年度	22年度	23年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		171	673	166
人件費【2】 (千円)		750	4,824	2,736
職員数	正規職員	0.10 人	0.67 人	0.38 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	41.50 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		921	5,497	2,902
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	921	5,497	2,902
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		21年度	22年度	23年度(見込み)
① 啓発イベント回数	回	2	2	2
②				
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		460,500 円	2,748,500 円	1,451,000 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		8 円	47 円	25 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成21年度		平成22年度		平成23年度
	①	平和展への参加者数 (式)	人	どれだけ多くの市民に平和の尊さについて考えてもらうことができたか	目標	250	800	達成率(%)	500
					実績	200	1,500	187.5%	
	②	平和ゲートボール大会参加者数 (式) 1チーム7人×参加チーム数	人	平和メッセージを含む開催趣旨にどれだけの人賛同したか	目標	144	144	達成率(%)	91
					実績	105	78	54.2%	

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	世界で唯一の被爆国である日本において、日本国憲法や非核平和都市宣言に基づき、関与が必要である。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	市民の平和意識の高揚を図り、恒久平和の実現に向けて貢献するまちづくりのために、「羽曳野市平和展&人権展」で羽曳野市独自のメッセージとして“ピースアピール”を掲示するなど、平和への願いを込めた事業を展開している。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☐	☒	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	人員や事業費は、数度の見直しにより必要最小限の規模となっている。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	恒久平和の実現に向けて貢献する社会を構築するために有効である。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	担当課における企画立案・運営のため、企画の段階から市民は参画していない。事業(特に平和ゲートボール大会)の開催については、市民団体の協力が不可欠である。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	イベントの参加者数については、目標を概ね達成している。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	一部の市民や団体だけでなく、より多くの市民に向けた発信が必要であり、また、継続実施していくことが重要である。これまで、事業の見直しをしてきたことにより効果的、効率的に事業展開がなされている。 今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など) 平和の尊さ、戦争の悲惨さを訴え、平和意識の高揚を図るために引き続き事業を継続する。	

行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	